

いろんな生き物がいっぱい！

白川小奥地区で「小川と仲良くなろう」

7月31日、夏休み中の子どもたちが小川に生息する生き物などを観察する「小川と仲良くなろう」が、白川地区の土手川で開催されました。

これは子どもたちが自然に触れ、環境について考えてほしいという願いから、同地区の小奥環境資源保全隊が毎年開催しているもの。子どもたちは網を手に入小川に入り、地域の人から教わりながら色んな生き物を採って観察していました。小川では小魚や貝のほか、サワガニなど、きれいな水にしか生息しない生き物もあり、参加した子どもたちは「色んな生き物がいて楽しかったです。これからもこのきれいな自然を守りたいです」と話してくれました。

この日はニジマスのつかみ取りも行われ、夢中で追いかける子どもたちに、保護者や地域の人たちから歓声があがるなど、真夏の暑さに負けないくらい白熱したイベントとなり、親子や地域のつながりの強さが感じられました。



1_見つけたサワガニを披露！ 2_小川で生き物を探す子どもたち。何が採れたかな？ 3_暑さを忘れ、夢中でニジマスを追いかける子どもたち

大きなカメラに入ってみよう！

夏休みワークショップを開催

8月4日、白石第二小学校で「夏休みワークショップ」が開かれました。このワークショップは、カメラの原理を使って見慣れた日常を見つめ直す芸術体験で、一般社団法人SOFAが企画し、同校区子ども会育成会と共同開催したもの。この日は、3～6年生までの児童9人のほか、ジュニアリーダー、白石高等学校写真部の生徒、保護者や教師などが参加しました。

児童たちは、初めに教室内を大きなカメラに見立て、窓や壁の隙間にダンボールやテープなどを貼って遮光。その後、ピンホール現象によって、窓側に開けた小さな穴から差し込む光が、反対側の壁に外の景色を上下左右逆さまに映し出すことを確認すると、その中を車が通り抜れたり、人が動いたりする様子に驚いていました。

参加した児童は「カメラの原理が楽しく理解できました。昔の人はすごいなあと思いました」と充実した表情で話していました。



1_カメラの中を興味津々にのぞき込む児童たち 2_持ち寄った段ボールで窓をふさぎ教室を暗箱にしてカメラの内部を再現！ 3_壁に写った逆さまの景色や友達の姿を不思議そうに観察する児童たち

好評！ 白石の新ブランド野菜

小十郎の郷で「ピュアホワイトまつり」

7月28日、小十郎の郷で「ピュアホワイトまつり」が開催されました。昨年に続き2回目の開催となったこの日は、午前9時の開店を前に多くのお客さんが来店。帰りには両手にたくさんのお客さんが抱えたお客さんの姿も見受けられました。試食をした子どもは「いつも食べている黄色いトウモロコシよりも甘くておいしいです」と笑顔で話していました。

このピュアホワイトは、9月上旬ごろまで販売予定（天候状況などにより数量限定）です。



▲今年も大勢のお客さんと賑わったピュアホワイトまつり

相手を思いやる気持ちを大切に

白川小学校で人権教室

7月18日、人権擁護委員による「人権教室」が白川小学校で開催され、全校児童57人が高学年と低学年の2班に分かれて参加しました。

高学年の授業では、いじめについて考える内容のDVD『プレゼント』を鑑賞。人権擁護委員から「自分らしさと同じように相手らしさも認めることが大切です」と教わっていました。

授業後の感想文には「一人一人の個性を大切にしていじめのないクラスにしたいです」という前向きな気持ちが書かれていました。



▲人権擁護委員の話真剣に聞く児童たち

勇気ある若者をしのぶ

李秀賢慰霊碑を尊ぶ会記念式典

2001年1月、東京の山手線新大久保駅で、線路に転落した男性を救おうとして亡くなった韓国人留学生李秀賢さんをしのぶ式典が、7月26日、大平にある「やすらぎの湯ゆっぽ」敷地内で行われました。同敷地内には、本市が北緯38度線上に位置していることから、世界平和を祈願した「北緯38度線通過基点」と李さんの勇気ある精神に感銘を受けて建立された慰霊碑があります。式典には約50人が参加し、献花や折り鶴を奉納して慰霊をしていました。



▲李さんの慰霊碑に献花する山田市長